



メグスリノキ (ムクロジ科) *Acer maximowiczianum* Miq.

名古屋大学博物館友の会

NUM 友の会 ニュースレター

No.73

2024年新春号

新しい年に思う

足立 守

“コロナ”はだいぶ下火になりましたが、ロシア・ウクライナ戦争が続く中、中東ではイスラエル・ハマス戦争が始まってしまいました。悲惨な光景が広がるガザ地域は、昔は綿花の一大産地で、良質な綿から作られた布がガーゼの起源になったと言われていました。2024年はどんな年になるのでしょうか？

NUM 友の会は名大博物館の一番のサポーターで、友の会発足以来、様々な形で博物館活動に関わっています。友の会の会員以外にも博物館を支援して下さる方が学内外にたくさんおられますが、元名大理学部長（在任期間 2006. 1. 1～2009. 3. 31）の近藤孝男先生もその一人でした。“生物時計”研究の第一人者で人間的にも素晴らしい先生が2023年11月16日に急逝されたのは残念でなりません。心からのご冥福をお祈りしつつ、『名古屋大学博物館サテライト2008 ノーベル賞展示室』の開設を支援して下さった先生について少し紹介しておきたいと思います。

近藤先生は2008年にノーベル化学賞を受賞された下村脩先生とはずいぶん前から交流があり、アメリカ出張の時には下村先生のところに寄って来るとよくおっしゃっていました。ノーベル賞展示室の一番奥に展示してある「オワンクラゲを捕獲したタモ」は、下村先生の研究室に残されていた最後の一本を近藤先生がぜひ名大にとお願いされたものです。2010年の秋に「足立先生、先週、アメリカの下村先生からタモが届いたので展示に使ってください。これは下村先生ご自身が郵便局まで持って行き発送して下さったものです」と言われたことをよく覚えています。



ノーベル賞展示室の正式名称に名古屋大学博物館がついているのも近藤先生のお陰です。2008年は名大がそして日本中がノーベル賞に湧いた年でした。小林誠先生・益川敏英先生が物理学賞、下村先生が化学賞を受賞されたのを受けて、博物館ではすぐに「2008年ノーベル物理学賞・化学賞受賞記念特別展」を11月～12月に開催しました。近藤先生も会場に2度ほど足を運んでくださいました。そして、新築のES館に2008年のノーベル賞研究を紹介する展示室作りの議論が進んでいた頃には、「博物館がちゃんとしたノーベル賞展示をしたのだから名古屋大学博物館の名前を冠することに異論は出ないでしょう」とおっしゃってください、2011年6月に現在のノーベル賞展示室がオープンしました。

博物館サポーターとしての近藤先生の存在はひじょうに大きく、ノーベル賞展示室の前を通るたびに先生の笑顔を思い出します。

* 写真は2019年の忘年会の時の近藤先生（三輪久美子氏撮影）

NUM 友の会会費の納入について

松本晃子

日頃は友の会の活動にご理解、ご支援をいただき有難うございます。来年度の会費は、今号に同封します「払込票」をご使用いただき、お近くの郵便局からお振込みくださいますようお願いいたします。

締切は2月末です。

なお、会費を納入いただいた方へは3月中旬に会員証を作成し、次回ニュースレター（4月上旬発送予定）に同封いたします。既に来年度会費を納入いただいている方は、振込不要でございます。

コロナの流行がなかなか終息しない中、友の会の活動も制限されておりますが、来年度も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

万葉の花 その 11

イワタバコ

三矢保永

やまおさ しらつゆ
山萵苣の 白露しげみ うらぶれて 心も深く

わが恋い止まず

柿本人麻呂 万葉集巻十一 2469

大意 山ぢさについた白露が重くて、うなだれて思
い沈んでいるように、心の奥底では、私の恋は止むこ
とがない。

注 万葉集に詠まれている“萵苣（ちさ）”の現代植
物名としては、発音が似ている野菜のチサ（在来種の
掻きチシャ）、落葉高木のチシャノキとする説があり
ます。主流はエゴノキ説のようですが、イワタバコと
する説もあります。人麻呂の連続する歌 2465～2483
の19首は、草に寄せる歌群であり、上記の歌の山萵
苣は、木ではなく草と解釈するほうが自然です。万葉
学者の伊藤は“山中の草”としています。イワタバコ
説の根拠になっているのかもしれませんが。伊藤は、白
露の重みには、恋の苦悶や相手の冷やかかさの比喩
の意味合いがあろうか、とも述べています。イワタバ
コは山中で日当たりのわるい湿った岩場に生え、葉
の形がタバコに似ています。若葉は食用にもなるそ
うですが、繁殖力が弱いので、見るだけ、撮るだけ、
にしましょう。

参考文献1：中西進 万葉事典 講談社文庫

参考文献2：伊藤博 万葉集釈注 集英社文庫ヘリテージシリーズ



撮影 写真サークル 梅原誠人
撮影地 愛知県豊根村

Artist Earth 地球は芸術家 23

ジルコン (zircon)

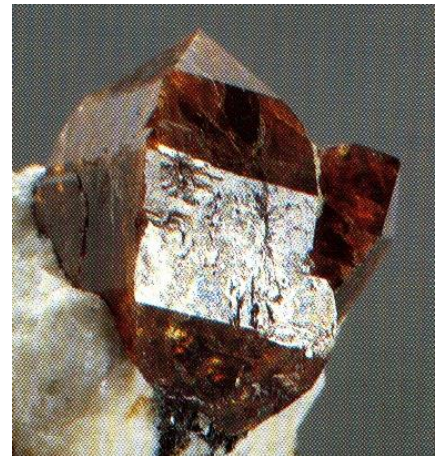
足立 守

ジルコン (zircon、写真で褐色の結晶) は学問的に
も工業的にもひじょうに重要な鉱物です。その名前
の由来はペルシャ語の zar (金)、gun (色) と言われ
ています。

ジルコン (化学式は ZrSiO_4) の最大の特徴はその
耐熱性です。主要成分であるジルコニウム (Zr) の融
点は 1800°C 以上と高く化学的にも安定しているので、
工業的には原子力発電用の燃料被覆管 (燃料のウラ
ンペレットを詰める管) の材料になっています。原子
炉に不可欠な物質ということでアメリカではジルコ
ンは戦略物質に指定されています。

2011 年 3 月の東日本大震災で東京電力福島第一原
子力発電所が壊れて原子炉を冷却できなくなり、炉
心溶融 (メルトダウン) を起こして大量の燃料デブリ
ができました。このことは冷却水切れによる原子炉
の空焚きの温度が 1800°C 以上になったことを物語っ
ています。

ジルコンのもう一つの特徴は少量のウランを含む
ことで、ウラン-鉛年代測定によく使われます。生き
ている地球で
は、地球ができ
た頃の岩石がそ
の後の地殻変動
で変成作用を受
けたりマグマに
取り込まれたり
して、当初の年
代情報が消えて
しまっているこ
とがよくありま
す。



ジルコンの大型結晶 (楽しい鉱物図鑑より)

しかし、耐熱性の大きいジルコンは 1000°C を超え
る高温のマグマの中でも簡単には溶けないので、太
古の年代情報を残すタイムカプセルとして貴重です。

地球最古の石は1998年に北極圏カナダのスレイブ
地域で発見された40億年前のアキャスタ片麻岩です。
片麻岩中のジルコンは、約40億年前に花崗岩のマグ
マから誕生しその後約36億年前に変成作用を受けた
歴史が記録されています。

惑星探査が進展する中、今後ジルコンは太陽系の
形成史の理解にも大きな役割を果たすでしょう。

ボタニカルアート講師として

やまだえりこ

2023年8月から東海林富子先生のボタニカルアートの時間を引き継ぎました、やまだえりこ と申します。ボタニカルアートを描き始めて今年で37年目になります。身近な植物、湿地や高山の植物、シダ、腐生植物などを描き、実体顕微鏡で観察して記録することもあります。いつの間にか記録した植物は500種を超えました。

最近では北海道や九州、沖縄などへ植物観察に出かけて旅先で描くこともあります。北海道の夕張岳ではたくさんのランや、初めてユウバリリンドウに出会うことができ、頂上近くでは遠くにヒグマの姿も見えてとても感動しました。また、大分県では野焼き後の草原に咲くキスミレや湿地に咲くサクラソウなどを、灰や泥で真っ黒になりながら観察スケッチをしてきました。自然に咲く姿は本当に美しいですね。いつまでも咲き続けてくれることを願っています。

ところでボタニカルアートを描かれている皆さんはどのような目的で描かれていますか？旅先で出会った植物や、お花屋さんで見つけたお花、お庭で大切に育てた植物などを思い出に残されている方もあるかもしれません。描かれる植物や目的はそれぞれでも、よく観察して植物の作りを理解して描くことが大切です。絵の上手さよりも、正確に丁寧に描くことが美しさにつながり、絵を見た方に植物の正しい姿を伝えることができると思います。初めての方は葉一枚、花一輪から始められると良いでしょう。

これからは皆さんと四季折々の植物を楽しく観察、デッサンし、実物に近い色で表現できるように、一緒に考えながら描いていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



季節の実や葉っぱをみんなで観察



やまだ先生の作品 サンザシ

野鳥観察会&ギャラリートークを開催

吉野奈津子

11月23日、セミナーハウス展示「“名大”のここにいる！可愛い鳥たち」の関連イベントとして野鳥観察会とギャラリートークを行いました。講師は鳥の写真の撮影者、三宅旦将さんと生物研究会の皆さんです。風のないうちのお天気に恵まれ、観察園から鏡ヶ池まで歩きつつ野鳥を観察しました。残念ながらカワセミはいませんでした。カイツブリ、コサギ、ゴイサギ、カルガモ、マガモなどを観察することができました。



野鳥観察の後はギャラリートークです。撮影された鳥についてのお話に加え、名大内で見られる鳥の、長年における移り変わりについても話していただきました。小さなお子さんたちの参加が多かったのですが、鳥を通じて会話が広がり仲良くされているのが印象的で、楽しく終えることができました。



**ボラン
ティア
募集**

友の会では随時ボランティアを募集しています。ニュースレターの発送など、一緒に活動しませんか？

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。

Eメール：hakubututomo@gmail.com

野外観察園 2023～24 冬

吉野奈津子

急に冬がやってきて、木々もきれいに色づきましたね。観察園もカイノキやメグスリノキの赤い葉っぱがきれいです。

前回ご紹介したシコクビエは虫がついたりしてあまり食欲をそそる状態ではなかったのですが、原稿のネタに困ったのでクッキーを作ってみることにしました。きれいなところだけ選んで手で揉んで枝から粒を取り除きます。布を巻いた文鎮でトレイに入れた粒をゴリゴリこすり、ゴミを吹き飛ばす。この地味な作業が大変です。まだ未成熟の白っぽい粒も混じっており、コメにはない少々青臭い香りもしました。酸欠になりつつやっと 60 g の粒を調整。ミルにかけたらあっという間に粉になりました。皮ごと挽くので薄茶色です。10 g は粒のままで加え、オートミールも入れてみました。

貴重な粉だったのに少々焦がしてしまい、自分がっかり。まあ許容範囲と信じ、シコクビエを実験材料にしているラボの皆さんに押し売りに行きました。

ラボでは以前に石臼で粉にして団子をつくったそうですが、石の粉のジャリジャリで食べられなかったとのこと。今回はミルを使ったのでその心配はなく、シコクビエ自体はおいしいことが分かりました。粒がプチプチする食感もよかったです。粒を取るまでが大変なので、研究室などのイベントとしてみんなでワイワイやるにはいいかもしれませんね。個人的にはお粥が気になります。



脱穀したシコクビエ（直径 1 mm） シコクビエクッキー



ラクウショウ（ヒノキ科）*Taxodium distichum* (L.) Rich.



メタセコイア（ヒノキ科）
Metasequoia glyptostroboides Hu et W.C.Cheng



カイノキ（ウルシ科）*Pistacia chinensis* Bunge

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2023 年 12 月 18 日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767（博物館事務室） F A X：052-789-5896（博物館事務室）

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2 番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000 円（4/1～3/31） 10/1～3/31 に入会した場合は 500 円（次年度は 1000 円）

家族会員制度あり（同居の家族 1 名まで年会費を免除）

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九（ゼロハチキュウ） 店番（089）当座 0166807